

ぎょうだ
歴史系譜 211
行田の歴史再発見 14

阿部家から松平家への藩主交代〜文政6年の三方領知替え〜

文政6年（1823）3月24日、忍藩主阿部正権は幕府から白河への転封を命じられました。さらに、白河藩主松平定永（久松松平家）が桑名へ、桑名藩主松平忠堯（奥平松平家）が忍へという、十萬石の譜代大名が3人同時に転封になる三方領知替えが実施されたのです。

転封とは、幕府が大名の拠点となっている領地を移動させることです。江戸時代の前期までは、大身の外様大名も含めて頻繁に転封が行なわれていたのですが、中期以降は件数が減少して、同じクラスの譜代大名の交換転封が中心となりました。幕府が命じる転封は、大名の領地加増や出世、大名への処罰、大名自身の希望などのほか、さまざまな政治的な理由により行われることがあります。

この三方領知替えは、前白河藩主で元老中首座だった松平定信が幕府に強力に働きかけたためといわれています。桑名は、久松松平家が元和3年（1617）から宝永7年（1710）まで藩主だったこと



白河小峰城（白河市）

に加えて、当時白河藩が担当していた江戸湾沿岸警備の負担軽減のため、新領地に転封を願っていたとの説もあります。次に、桑名藩主松平忠堯の移動先ですが、忠堯には転封させられる理由はないのですから、あまり条件の悪い場所に移すわけにもいきません。そこで、白羽の矢が立ったのが忍藩でした。忍藩主阿部正権は当時17歳でしたが、わずか2歳で藩主に就任してから藩内の混乱が続き、本人も病弱で、大名の人生儀礼のなかでも重要な將軍への初お目見えを済ませていませんでした。忍藩の状況は幕府に伝わっていたと思われ、阿部家を白河に移して、そこに松平忠堯を入れるという領地替えが実行されたと考えられます。

阿部家は忍に184年、奥平松平家も桑名に113年いたのですから、新しい領地に動くことはさまざまな問題があったようです。発令から半年後の9月末には、旧藩主から新藩主への忍城・桑名城・小峰城の受け渡しが完了し、忍藩は阿部家から松平家の時代へと移っていきました。なお、この転封が縁となつて、平成10年に行田市・白河市・桑名市が友好都市となりました。（郷土博物館 鈴木紀三雄）

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃん分かりやすく紹介します。

こぜにちゃんが行く!
 with フラベネ

きょうどはくぶつかん
郷土博物館

昭和63年2月、忍城本丸跡地に開館した郷土博物館。行田を代表する歴史スポットの一つで、行田の歴史を今に伝えているんだ。博物館には、たくさんの資料が保管されているけど、その数は30,000点以上というから驚きだよ。

展示室には、忍城の模型や日本で唯一の旗を立てた馬の塙輪などが展示されているよ。御三階櫓の一部も展示室となっているから、天気の良い日には最上階から富士山も見ることができるよ。

忍城おもてなし甲冑隊も博物館を中心に、演舞の披露や記念撮影などをして、行田を訪れた方を「おもてなし」しているんだって。博物館に来たときは声を掛けてね。



今月の表紙

9月10日・11日、市民プール脇広場および水城公園市民広場で開催された関東B-1グランプリin行田。来場者は30度を超える暑さにも負けず、出演団体の提供するB級で当地グルメを求めて長い列をつくっていました。（関連22ページ）

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当（内線318）までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています